

ガネフォ大会参加から半世紀を迎えて

村川 吉高（75歳）
(日本大学出身)

あれから丁度半世紀を迎える事が出来ました。つい最近の出来事の様に感じますが、残念ながら若い当時のことをよく思い出せません。しかし、何とか思い出しながら書いております。

1963年10月10日（東京オリンピック開催の1年前）東京では、東京国際スポーツ大会が開催され、水泳では12日200背泳ぎ（女子）で田中聰子選手優勝。13日200背泳ぎ（男子）で福島滋選手が本年度世界最高記録2分11秒9で優勝。これに続き200バタフライ（女子）で高橋栄子選手が優勝しました。

10月18～20日にIOC総会が開催され、1968年五輪をメキシコ市に決定とインドネシアが五輪憲章を守れば復帰を認める決議をしました。

10月8日インドネシア文化省のSHスバルド次官が来日。日本は体育協会の東京オリンピックがあるので、この選手達はガネフォ大会には、参加できないという事情を同次官は了解した。そこで、次に大学や商社を通じてガネフォ出場可能な選手を勧誘しました。10月24日に水球参加12選手を発表（日本の将来の為、スポーツを通じて国際親善推進を表明。）

10月25～6日伊豆の峰温泉で合宿を行い。11月2日羽田空港からガルーダ・インドネシア航空（プロペラ機）で出発。（当時1ドル360円で持出しは100ドルまでと決っていたが、何とかして300ドル持った他、物々交換用にカメラ2台を持った。）

給油の為、香港、マニラ経由で目的地ジャカルタに到着。空港で熱烈な歓迎を受けた。早速前年アジア大会で使用した選手村へ入りました。

ガネフォ大会は11月10日～22日まで行われ20種目に43か国が参加し、大成功の様でした。11月13日インドネシア体育相が、ガネフォ大会に多くの日本選手が参加してくれたので、来年の東京オリンピックに同国は必ず参加すると記者会見で言明しました。

初めての海外。言葉の問題、ベチャ（二人乗の輪タク）に乗ったものの、おじさんに言葉が通じず街を一周しただけで終り、夢の街・探訪の目的を達しない事がありました。時間のルーズさには大変驚きました。選手送迎バスを待てど来ません。聞くと別のアルバイトをして平氣で遅れていた。赤道直下の暑さ

等がありました。幸い選手村の食べ物が美味しく、日本から持つて行ったカップラーメンを、朝から洗濯物の見張りをしてくれた、裸足の少年マナップスに（デート時には革靴を履いていた）貴重なホンコンシャツと一緒にあげてしましました。

また、ボゴール宮殿ではスカルノ大統領の歓迎を受けたり、日本大使公邸で久しぶりの銀シャリを戴いたり。現地人の大理石で出来た家（旧オランダ領時代の建築）へ招待されたり、その他避暑地バンドン等素晴らしい所への招待も受けました。ガネフォ大会参加の日本選手の成績は連日、読売新聞等で報道していました。

羽田空港を出発の日、前日（11月1日）発行されたばかりの、新千円札が手に入り喜んだ記憶があります。バンカーの桑原君の心配りと思われます。

日本を留守にしている間に、国内外で大きな出来事がありました。

11月9日には国鉄横須賀線鶴見で死者133名の列車脱線事故が発生、三池炭鉱では死者171名、他不明者254名の炭塵爆発による戦後最大の惨事がありました。

11月21日に衆議院総選挙が行われ、池田勇人自民党283議席、社会党144議席、民社党23議席、他 計467議席の結果となりました。そして、11月22日には、ケネディ米国大統領がテキサス州ダラスで暗殺される大事件がありました。

大相撲九州場所は14勝1敗で、大関・栃ノ海が2度目の優勝を飾りました。それにしてもガネフォのチームメイトの菅久 田中 浜野の3氏は、南十字星のもとに、あまりにも早い旅立でした。

合掌



左が私（村川）